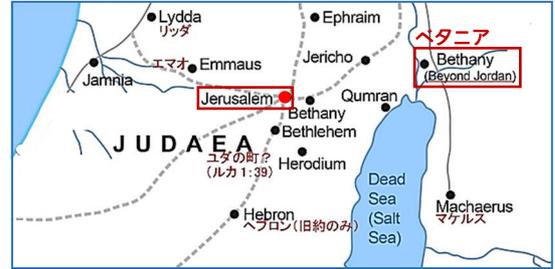


131 後の者が先になり、先の者が後になる

ヨハネによる福音書 10：40～42、ルカによる福音書 13：22～35

▶ヨハネによる福音書 10：40～42

40 イエスは、再びヨルダンの向こう側（ペレア地方にあるベタニア）、（バプテスマの）ヨハネが最初に洗礼を授けていた所（→イエスがヨハネからバプテスマを受け、公生涯を始めた場所→マタイ 3：13）に行き、そこに滞在された。



41 多くの人イエスのもとに来て言った。

「ヨハネは何のしるしも行わなかったが、彼（→ヨハネ）がこの方について話したことは、すべて本当だった。」

42 そこでは、多くの人イエスを信じた。

【一言】白洲次郎の言葉

「世の中にはね、すべて、物でも人でも3つあるんだよ。1つ、ホンモノ。2つ、ニセモノ。3つ、似て非ざるものを書いてエセ（似非）モノ。このエセモノが難しいんだよ。」
「君（→なべおさみ）、大きくなったら、これが見分けられる人間になりなさい。」

それには「ホンモノをたくさん見ることだ。だから、これからは、絵でも、古代建造物でも、博物館だろうが、美術館だろうが、展览会だろうが、いっぱい見るんだよ。そうするとホンモノがわかる。そうするとニセモノがわかる。だんだん目が養われて、エセモノもわかるからね。」

「古代ユダヤで読み解く天皇家と嘘部の民の謎」なべおさみ+久保有政 共著 P.169 より

※嘘部の民：大昔から天皇家の安泰を保持するために裏から支えた、武器を使わない民の軍団。



出典(下図)：グレゴリウス講座

▶ルカによる福音書 13：22～35

狭い戸口（ルカによる福音書 13：22～30、マタイによる福音書 7：13～14、21～23）

22 イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって（宣教の旅を）進んでおられた。

23 すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。

イエスは一同に言われた。

24 「狭い戸口（NIV：the narrow door/NKJV：the narrow gate）から入るように努めなさい（→回復訳：努力して、狭い門を通過して入りなさい）。

言うておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。

→（リビング・バイブル）天国への門は狭いのです。できるかぎりの努力をして、そこから入りなさい。

→狭い戸口（門）：イエスの教え＝イエスをメシアと信じる信仰によって、神の国に入れる。

広い戸口（門）：ファリサイ派の教え＝ユダヤ人として生まれたなら、当然、神の国に入れる。

25 家の主人が立ち上がって（→決意の表れ）、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返ってくるだけである（→恵みの時が終わると、いくら懇願しても戸は開かない）。

26 そのとき、あなたがたは、『御一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです』と言いだすだろう。

27 しかし主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不義を行う者ども、皆わたしから立ち去れ』と言う

だろう。

28 **あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり、そこで泣きわめいて歯ざしりする。**

→イエスを信じなかった者たちは、外に投げ出される。

29 **そして人々（→異邦人たち）は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。**

→「東から西から、また南から北から来て」⇒異邦人

→「神の国で宴会の席に着く」⇒救われる

30 **そこでは、後（→殿：しんがり＝最後尾）の人（→異邦人）で先になる者があり、先の人（→ユダヤ人）で後になる者もある。」**

【参考】躡り口(にじりぐち)

千利休は、茶室（小間一こまと呼ばれる4畳半以下の茶室）に「躡り口」と呼ばれるものを取り入れました。利休が生きた戦国時代は、主従関係が強い時代でしたが、茶室の中ではすべての人が平等であることを示すために入り口を低くしました（身分の高い武士でも、刀を腰から外し、外に置き、頭を下げなくては茶室に入ることができない）。その大きさは、高さ2尺2寸（約67cm）、幅2尺1寸（約64cm）です。また、「にじる」とは、正座をしたまま両手をグーにして親指で畳を押しながら、体を前に進める動きを言います。



▶エルサレムのために嘆く（ルカによる福音書13：31～35、マタイによる福音書23：37～39）

31 ちょうどそのとき、ファリサイ派の人々が何人か近寄って来て、イエスに言った。

「**ここを立ち去ってください。ヘロデ（＝ヘロデ・アンティパス）があなたを殺そうとしています。**」

→ファリサイ派の人々は、このペレアの地（ヘロデの領地）ではイエスに手を出せないため、「ここを立ち去ってください」と戦略的に助言を与えるふりをして、もう一度、イエスを自分たちの管理下であるユダヤの地、エルサレムに戻そうと試みている。

→ヘロデ：【参考】ファイル No.082 洗礼者ヨハネの死

32 イエスは言われた。

「**行って、あの狐（→女狐：ヘロデア）に、『今日も明日も、悪霊を追い出し、病気をいやし、三日目にすべてを終える』とわたしが言ったと伝えなさい。**」

→狐：イエスが人間を表現するために用いた最も悲しく、厳しい言葉である。

→三日目にすべてを終える：最後には使命をすべて完了するという、「受難」を指している言葉です。

33 **だが、わたしは今日も明日も、その次の日も（今暫くは）自分の（なすべき宣教の）道を進まねばならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ。**

34 **エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽（→翼）の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか（→回復訳：めんどりが自分のひなを翼の下に集めるように、わたしはいくたび、おまえの子供たちを集めようとしたことであろう！）。だが、お前たちは応じようとしなかった。**

【参考】雌伏雄飛

実力を養いながら、活躍の機会をじっと待ち、機会が到来すると大いに活躍すること。

- ・雌伏：雄鳥に雌鳥が従い伏す意から、将来の活躍を待ちながら人に従うということ。
- ・雄飛：雄鳥が高く羽ばたくように、雄雄しく飛び立つこと。

35 **見よ、お前たちの家は見捨てられる** (→残される、AD70年—エルサレム神殿[第二神殿]崩壊—以降)。
言っておくが、お前たちは、『主の名によって来られる方に、祝福があるように』 (→詩編 118 : 26) **と言**
う時が来る (→再臨の預言) **まで、決してわたしを見ることがない。**

→ (回復訳) 見よ、おまえたちの家は、おまえたちに残される (→新改訳：荒れ果てたままに残される、NIV/NKJV : Your house is left to you desolate.)。わたしはおまえたちに言う。『主の御名の中で来られる方は、ほむべきかな (→賛美されるにふさわしい) !』と言う時が来るまで、おまえたちは決してわたしを見ることはない」。

→ (回復訳解説) この家(ギリシア語は単数)は、神の家であり、神の宮でした。ユダヤ人が主を拒絶したために、御子にあって来た神である主は、その宮をユダヤ人自身の家と考え、見捨てられました。そして、それを破壊され、荒廃する場所として、彼らに残されました。

→ (詩編 118 : 26) 祝福あれ、主の御名によって来る人に。わたしたちは主の家からあなたたちを祝福する。